

【事業の名称】 国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-work カリキュラム

【選定年度】 平成28年度（タイプA-② CAMPUS Asia）

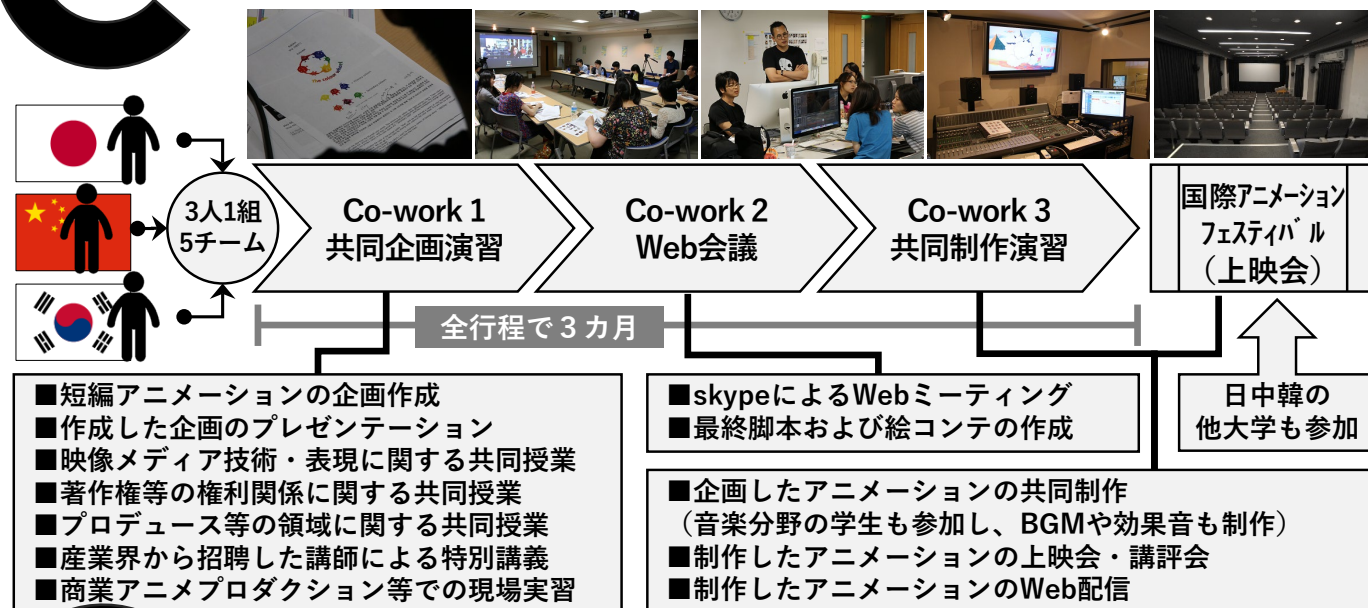
【事業の概要】

■本事業では、新時代のアニメ・映画監督を育成するために、国際的にも同分野で評価の高い日本・中国・韓国の国立大学が、国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムを構築する。三大学の高度な連携により可能となるこの事業は、アニメーションの国際教育拠点形成を見据えた、世界をリードする取組である。

【交流プログラムの概要】



**国際共同演習** 日中韓の学生によるアニメーション作品の国際共同制作



**短期集中講座** 各国の技法・表現等を重点的に修得

■特別講義、インターンシップ、ワークショップなど ■年間2-3人の学生を相互派遣／受入

【本事業で養成する人材像】

- ・アニメーション分野において国際共同制作や共同研究を牽引する人材
- ・国際的な視野を持ち、深い知識と高い技術を国際協働の場で活かせる人材
- ・映像分野におけるグローバル化を先導する人材

【本事業の特徴】

■日本・中国・韓国という、映像メディアおよびアニメーションの分野で評価の高い国々において、各国を代表する国立大学の学生が混成チームによりアニメーションの共同企画から制作までを行うプログラムは、世界的に見ても例のない極めて先進的かつ実践的なものであり、高い教育効果と社会的なインパクトを有する。

【交流予定人数】	H28		H29		H30		H31		H32	
日本(J)での受入	C	0	C	8	C	2	C	8	C	7
	K	0	K	7	K	3	K	7	K	8
中国(C)での受入	J	0	J	3	J	7	J	8	J	2
	K	0	K	2	K	8	K	8	K	3
韓国(K)での受入	J	0	J	7	J	8	J	2	J	8
	C	0	C	8	C	7	C	3	C	7

# 1. 取組内容の進捗状況（平成28年度）

【東京藝術大学】

【事業名称】 国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-work カリキュラム

【選定年度】 平成28年度（タイプA-② CAMPUS Asia）

## ■ グッドプラクティス等



ヴァーチャル・リアリティ(VR)ワークショップ



韓国芸術総合学校学長及び  
韓国国会議員等とのミーティング



連携三大学の共同Webサイト創設

## ■ 交流プログラムの実施状況

### 【国際共同演習】

平成29年度プログラムの実施概要・テーマ・スケジュールを確定させ、詳細な内容・評価方法・成果発表の手段等を設計し、実施体制の整備を進めた。

### 【短期集中講座】

平成29年度のプログラムについて各大学の企画を検討したほか、平成29年2月には韓国芸術総合学校において2週間のヴァーチャル・リアリティ（VR）のワークショップを開催した。本学からは7名の学生が参加し、韓国芸術総合学校の学生5名、中国伝媒大学の学生5名と共同学修した。

	H28	
	計画	実績
日本(J)での受入	C 0 K 0	C 0 K 0
中国(C)での受入	J 0 K 0	J 0 K 0
韓国(K)での受入	J 0 C 0	J 7 C 5

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・日中韓学長フォーラムに参加し、他大学の優良事例やエラスムス+に関する情報を収集した。
- ・韓国芸術総合学校および中国伝媒大学において、連携大学間の対面協議を開催した。
- ・三大学の担当教員同士によるskypeミーティングを定期的実施した。
- ・アメリカ、カナダ等の教育研究機関への往訪や、海外から数十名のアーティストの招聘を進め、アニメーションや映像メディア領域に係る最新の技術・ノウハウ・機器類等の調査を行った。
- ・産業界・自治体等との共同事業を通じ、緊密な連携関係を構築した。
- ・全学組織であるグローバルサポートセンター運営委員会において本事業の自己点検を実施した。
- ・本補助事業を含むグローバル戦略推進状況について外部委員によるレビューを行った。
- ・機器類/設備類の調達等により、質の高い教育プログラムを実現する為の環境を整備した。

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・本事業を担当する特任教員および支援スタッフを雇用した。
- ・英語によるプレゼンテーションに係る学習プログラムを設計・試行した。
- ・SGU事業により構築したグローバルサポートセンター、チューター制度等を活用した。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・本事業に係る連携三大学共同の特設Webサイトを開設し、事業の全体概要や将来構想等について発信したほか、上述のVRワークショップの成果等についても公開した。
- ・本事業を含む本学映像研究科の国際展開に係る報告書を作成し、全学的に共有した。
- ・本学と韓国芸術総合学校との間で、本事業について、双方の学長同士による対面協議を実施した。また、当該協議の場には、韓国の国会議員2名も同席した。



## 2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【事業名称】 国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-work カリキュラム

【選定年度】 平成28年度 (タイプA-② CAMPUS Asia)

### ■ グッドプラクティス等



①



②



③



④

### ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ



K ARTS

	H29
日本(J)での受入	C 10 K 10
中国(C)での受入	J 10 K 5
韓国(K)での受入	J 14 C 11

- ① 3国の学生による共同制作の様子
- ② 南カリフォルニア大学教員によるワークショップ
- ③ 2週間の共同作業後、別れを惜しむ学生たち
- ④ 京都在開催された「日中韓文化芸術教育フォーラム2017」での成果発表

### ■ 交流プログラムの実施状況

#### 【国際共同演習】

東京藝術大学、中国伝媒大学、韓国芸術総合学校3大学の学生から成る混合チームを5組作り、アニメーションの共同制作を実施する本プログラムについて、平成29年度は教員間の事前協議の結果「目覚める(Awake)」をテーマとした。5月に共同企画ステージを本学で1週間、7月に共同制作ステージを中国伝媒大学で2週間実施し、本学から9名、中国伝媒大学から5名、韓国総合学校から5名の学生が一堂に会し、共に作品を作り上げた。制作された作品とその教育的成果は参加大学間に留まらず、「日中韓文化芸術フォーラム2017」や「SIGGRAPH ASIA」など、様々な場で広く一般に発信された。

#### 【短期集中講座】

前年度に引き続き、平成29年8月に韓国総合学校において、2週間のヴァーチャル・リアリティ(VR)のワークショップを開催した。本学からは4名の学生が参加し、韓国芸術総合学校の学生5名、中国伝媒大学の学生5名と共同学修した。また10月には本学を会場に、ゲームデザインをテーマとしたワークショップを開催し、本学の学生5名に加え、韓国芸術総合学校と中国伝媒大学からそれぞれ学生3名ずつが参加した。

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・韓国芸術総合学校、中国伝媒大学と本学の3大学間で、本事業の円滑な推進を目的とした覚書を締結した。
- ・3大学の担当教員同士によるskypeミーティングを定期的を実施した。
- ・ゲーム教育で世界屈指の評価を得ている南カリフォルニア大学の教員によるワークショップ実施等、本事業で交流する3国以外の優れた教育手法を積極的に学び、プログラムに反映した。
- ・グループ単位での交流プログラム実施に加え、学生個人を連携大学間で派遣し合う短期交換留学を開始した。

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・連携3大学間での上映会や交流会を多数実施し、その際自己発信に必要なプレゼンテーション能力や、英語力向上のための事前研修機会を参加学生に提供した。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・本事業における平成29年度の取組に係る報告書を作成し、全学的に共有した。
- ・デジタルメディアに関する国際的な学術集会、SIGGRAPH ASIAに連携3大学合同で参加し、本事業の取組について発表した。

### 3. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

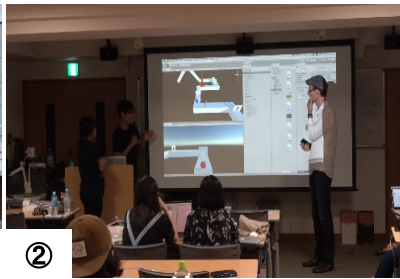
【事業名称】 国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-work カリキュラム

【選定年度】 平成28年度 (タイプA-② CAMPUS Asia)

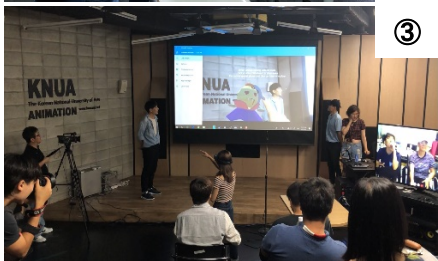
#### ■ グッドプラクティス等



①



②



③



④

#### ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ



K ARTS

	H30
日本(J)での受入	C 10 K 8
中国(C)での受入	J 10 K 23
韓国(K)での受入	J 6 C 21

- ①企画ステージで作品案を発表する学生たち
- ②南カリフォルニア大学教員によるゲームワークショップ
- ③MRワークショップの成果発表
- ④中国Aniwow!2018で発表する学生たち

#### ■ 交流プログラムの実施状況

##### 【国際共同演習】

東京藝術大学、中国伝媒大学、韓国芸術総合学校の学生が参加する混合グループを5組作り、チームごとに短いアニメーションを制作した。5月に中国伝媒大学で1週間の企画ステージを実施、終了後さらに、Web会議等による共同作業を続け、7月に中国から6名、韓国から7名が来日し、東京藝術大学の学生7名と共に作品を制作した。完成後には上映会を開催し、企画から上映まで3カ月にわたる日中韓共同カリキュラムとして完遂した。

##### 【短期集中講座】

東京藝術大学においてゲームワークショップ、韓国芸術総合学校においてMR(Mixed Reality 複合現実)をテーマとしたワークショップ、Aniwow!2018映画祭開催中の中国伝媒大学において3国の国際アニメーションフォーラム等を行い、本学から17名、韓国芸術総合学校から20名、中国伝媒大学からは10名の学生が共同修した。

##### 【交換留学】

・3大学間の覚書に基づき、30年度は中韓から1名ずつ学生を受入、3名を韓国に、1名を中国に派遣した。交換留学生は自身のプロジェクト制作を中心に滞在しながら、様々な教育プログラムに参加した。

#### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・教員の定期的なskypeミーティングを行ったほか、国際共同演習や公的なフォーラム・シンポジウムの機会に教員同士が対面でのミーティングを重ねた。
- ・個別の教育プログラム等の設計・実施にあたっては、外部機関とも協議を行い、産業界からの外部講師の招聘等を行った。
- ・キャンパス・アジア審査委員会によるモニタリング調査が韓国で行われ、3カ国の教員と学生が参加し、プログラムの質を一層高めていくための意見交換を行った。

#### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・プログラム参加学生に対して、自身のアニメーション作品について説明・解説する語学力・プレゼン力向上の為にプログラムを設計・実施した。

#### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・本事業における平成30年度の取組に係る報告書を作成し、情報を学内外に発信した。
- ・「第13回中国(北京)国際学生アニメーション映画祭Aniwow!2018」や「Before Now After」(ソウル市)において、本事業を通して制作された作品等、本事業の内容・成果について発表を行ったほか、連携三大学共同の特設Webサイト(caica.online)により情報発信を進めた。

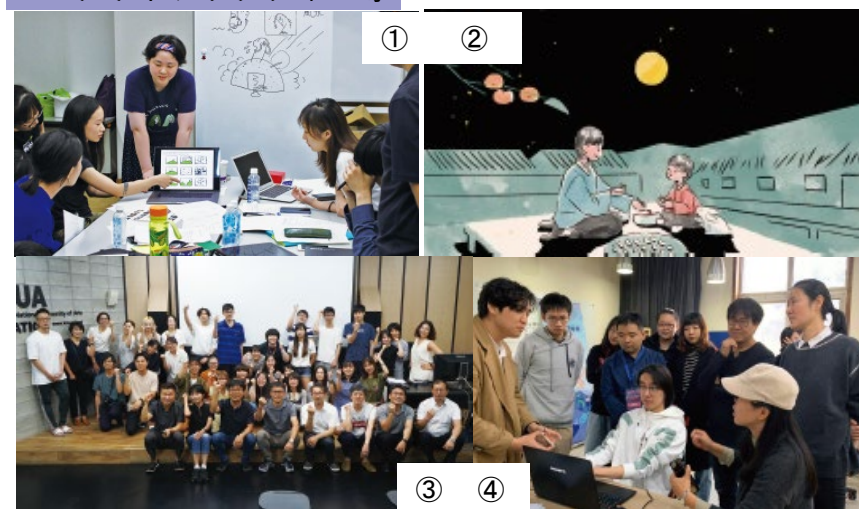


## 4. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【事業名称】 国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-work カリキュラム

【選定年度】 平成28年度 (タイプA-② CAMPUS Asia)

### ■ グッドプラクティス等



### ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ



K ARTS

	R1
日本(J)での受入	C 6 K 10
中国(C)での受入	J 1 K 2
韓国(K)での受入	J 9 C 5

- ①企画ステージで作品案を検討する学生たち  
 ②制作ステージで発表された作品の例  
 ③制作ステージ発表会に出席した学生・教職員  
 ④ワークショップ「人間とコンピューターの共生」

### ■ 交流プログラムの実施状況

#### 【国際共同演習】

・東京藝術大学、中国伝媒大学、韓国芸術総合学校の学生が参加する混合グループを5組作り、チームごとに短いアニメーションを制作した。5月に東京藝術大学で1週間の企画ステージを実施、終了後さらに、Web会議等による共同作業を続け、7月に中国から5名、韓国から10名が参加し、東京藝術大学の学生9名と共に作品を制作した。完成後には上映会を開催し、企画から上映まで3カ月にわたる日中韓共同カリキュラムとして完遂した。

#### 【短期集中講座】

・中国伝媒大学において「中国・日本・韓国国際アニメーションフォーラム」と「人間とコンピューターの共生」をテーマにワークショップを行い、本学から教員1名と学生1名が参加した。

#### 【交換留学】

・3大学間の覚書に基づき、31年度は中国から1名の学生を受入、1名を中国に派遣した。交換留学生は自身のプロジェクト制作を中心に滞在しながら、様々な教育プログラムに参加した。なお、2名の学生が韓国への交換留学を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の流行により実施を見合わせる事となった。

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・教員の定期的なskypeミーティングを行ったほか、国際共同演習や公的なフォーラム・シンポジウムの機会に教員同士が対面でのミーティングを重ねた。
- ・個別の教育プログラム等の設計・実施にあたっては、外部機関とも協議を行い、産業界からの外部講師の招聘等を行った。
- ・キャンパス・アジア審査委員会によるモニタリング調査が韓国で行われ、3カ国の教員と学生が参加し、プログラムの質を一層高めていくための意見交換を行った。

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・プログラム参加学生に対して、自身のアニメーション作品について説明・解説する語学力・プレゼン力向上の為のプログラムを設計・実施した。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

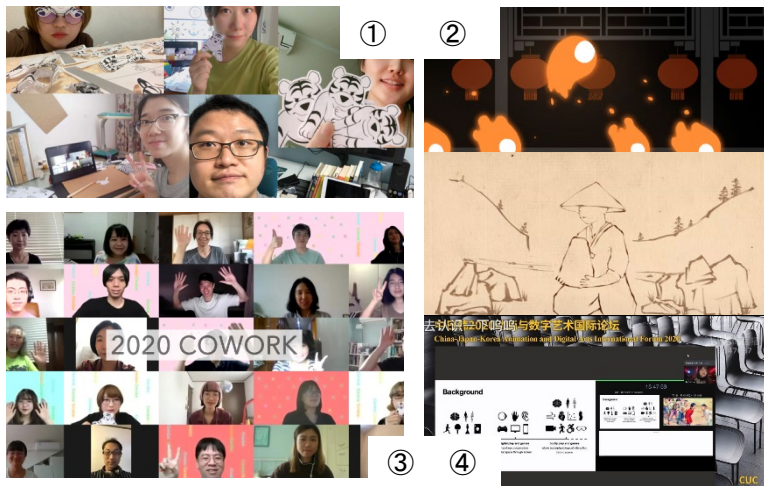
- ・本事業における平成31年度の取組に係る報告書を作成し、情報を学内外に発信した。
- ・「中国・日本・韓国国際アニメーションフォーラム」において、本事業を通して制作された作品等、本事業の内容・成果について発表を行ったほか、連携三大学共同の特設Webサイト(caica.online)により情報発信を進めた。

# 「大学の世界展開力強化事業」取組概要 令和2年度

【事業名称】 国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-work カリキュラム

【選定年度】 平成28年度（タイプA-② CAMPUS Asia）

## ■ グッドプラクティス等



## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ



	R2
日本(J)の参加者	9
中国(C)の参加者	10
韓国(K)の参加者	7

※交流数にはオンラインを含む

- ①制作ステージで作品案を検討する学生たち
- ②成果発表会で発表された作品の例
- ③成果発表会に出席した学生・教職員
- ④短期集中講座「中国・日本・韓国国際アニメーション・デジタルアート国際フォーラム」

## ■ 交流プログラムの実施状況

### 【国際共同演習】

・日中韓共同カリキュラムとして、東京藝術大学、中国伝媒大学、韓国芸術総合学校の学生を5組（1組5～6名）に分け、オンライン上で短編アニメーションの企画から上映までを行う国際共同演習を実施した。コロナ禍のため、参加者は一度も直接会うことはできなかったが、8月17日～29日の13日間の短期の演習期間中、オンライン上のやりとりのみで、それぞれの組が五行思想に基づくアニメーションを完成させた。完成後は「五行協奏曲」として、5つのアニメーションを連続してオンラインで上映し、上映会のゲストからは高い評価を得た。

### 【短期集中講座】

・中国伝媒大学主催で12月26日に「中国・日本・韓国国際アニメーション・デジタルアート国際フォーラム」を行い、本学から教員、学生それぞれ1名が登壇した。ウェブ配信でも約2,300人が同時視聴した。

### 【交換留学】

・3大学間の覚書に基づき、韓国に修士課程の学生1名を派遣したが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、以降は実施を見合わせる事となった。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・教員の定期的なオンラインミーティングを行った他、国際共同演習やフォーラム・シンポジウム等の機会にも教員同士がミーティングを重ねた。
- ・個別の教育プログラム等の設計・実施にあたっては、国際共同演習の実施時等に、アニメーション産業界からの外部講師の招聘を行う等し、他分野からの意見やアドバイスを受ける機会を積極的に持ちながら、プログラムの評価と改善に役立てた。
- ・韓国芸術総合大学とダブル・ディグリー実施の協議を進め、実施案の詳細な検討を行った。

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・プログラム参加学生に対して、自身のアニメーション作品について説明・解説する語学力・プレゼン力向上の為のプログラムを設計・実施した。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・本事業における令和2年度の取組に係る報告書を作成し、情報を学内外に発信した。
- ・12月下旬に開催された「中国・日本・韓国国際アニメーションフォーラム」において、本事業を通して制作された作品等、本事業の内容・成果について発表を行った他、連携三大学共同の特設Webサイト(caica.online)により情報発信を進めた。
- ・2021年1月22日にオンラインシンポジウム『Co-work 融合と競争 - 日中韓学生アニメーション共同制作 -』を開催し、世界的に著名なアニメーション会社社長や映画祭ディレクターを招き、今後の共同制作の展望について、ディスカッションを行った。